

TGR TEAM ZENT CERUMO

2021 AUTOBACS SUPER GT Report

たかのこのホテル FUJI GT 500km RACE

第2戦 富士スピードウェイ

ZENT CERUMO GR Supra

#38 立川祐路／石浦宏明

◆ 5月4日（火・祝） RACE

決勝結果 リタイア

予選3番手と好位置につけ、ZENT CERUMO GR Supraのフィーリングも大きく好転。長丁場の500kmレースに向けて着実な手ごたえを得て予選日を終えたTGR TEAM ZENT CERUMO。迎えた5月4日（火・祝）の決勝日も朝から富士スピードウェイは快晴に恵まれ、コロナ禍以前と同様とまではいかないまでも、多くのファンがスタンドを埋めるなか、午後0時55分からのウォームアップを迎えた。今回スタートドライバーを務めるのは石浦宏明。途中立川祐路のスティントをはさみ、ふたたび石浦がドライブするスケジュールだ。



ウォームアップで石浦はZENT CERUMO GR Supraのフィーリングを確認するが、わずかながら違和感を感じる。修正を加え、気温21℃、路面温度35℃というコンディションのもと迎えた午後2時30分からのスタートでは、石浦は好スタートを切ると、TGRコーナーでインから入り首位をうかがうが、アウトから入った#8 NSX-GTがトップに。続くコカ・コーラ・コーナーへの競り合いで#36 GR Supraにかわされるものの、3番手をキープすることになった。

そんななか、序盤の攻防が落ち着いたかと思われた3周目、7番手を走っていた#23 GT-Rが大きな白煙を上げ2コーナーで停止。火災が発生していたことから、レースはセーフティカーランとなった。

ZENT

GR TOYOTA GAZOO Racing

BRIDGESTONE

PMU RACING PADS

ADVICS

HELLER

asics

JMS

トヨタ東大

BBS

SHOWA BRAKE FLUID

YAMAHA

TGR TEAM ZENT CERUMO



リスタート後、石浦の背後には#14 GR Supra が迫ってくる。石浦はなんとかポジションを守ろうとさまざまなテクニックを駆使しディフェンスするが、16 周目のダンロップコーナーでアウトからしかけた No.14 GR Supra と ZENT CERUMO GR Supra の左サイドが接触してしまう。これで ZENT CERUMO GR Supra は左側のサイドフェンスを失い、バランスが崩れてしまう。

石浦はその後も奮闘をみせていたものの、後方からは#37 GR Supra が接近。21 周目にはこれにかわされてしまい 5 番手にドロップしてしまった。コクピットの石浦は、少しずつ左リヤに違和感を抱えつつあったが、さらに ZENT CERUMO GR Supra には、ポールポジションスタートだった#19 GR Supra が近づく。

なんとかピットで控える立川に良い形で ZENT CERUMO GR Supra を渡したいと石浦は防戦をみせるものの、あと 2 周ほどでピットインを予定していた 32 周目、パナソニックコーナー立ち上がりで石浦は異変を感じ取った。その直後、なんと ZENT CERUMO GR Supra の左リヤタイヤがホイールごと外れ、コースを転々としてしまった。瞬時に石浦はピットレーンに ZENT CERUMO GR Supra を向け、三輪走行でピットに戻るも、左リヤのピンが折れており、ホイールがつかない。

これで万事休すか……と思われたが、TGR TEAM ZENT CERUMO は長い 500km レースでなんとか収穫を得ようと、ZENT CERUMO GR Supra の修復を行っていった。しかし、症状から修復は断念。TGR TEAM ZENT CERUMO はリタイアを決断することになった。



表彰台の頂点を目指したはずのレースがまさかの展開となってしまった第 2

ZENT

GR TOYOTA
GAZOO
Racing

BRIDGESTONE

PMU
RACING PADS

ADVICS

HELLER

asics

JMS

トヨタ東大

BBS

SHOWA
BRAKE FLUID

M

TGR TEAM ZENT CERUMO

戦富士。この雪辱は結果で果たすしかない。第3戦鈴鹿に向け、TGR TEAM ZENT CERUMO は闘志を燃やし夕暮れの富士スピードウェイを後にした。

ドライバー／立川祐路

「残念ながら今日はドライブする前にリタイアという結果になってしまいました。非常に残念なレースになってしまいましたね。前日の予選では良いポジションを得ていて、そこから優勝を視野に入れていましたし、それに向けて頑張ろうとチーム一丸となっていただけに、この結果は本当に悔しい思いです。次の鈴鹿はなんとしても優勝を目指していきたいと思います」



ドライバー／石浦宏明

「スタートから3番手でレースを展開していきましたが、事前のウォームアップからバランスが完全ではない印象がありました。レース中も思ったよりもペースが上がらず、厳しいレースになりそうだと思いながら戦っていましたが、14号車とのバトルのなかで接触があり、それが原因かは分かりませんが、左リヤに違和感を感じながらの走行となりました。グリップを失いはじめ、無線でチームとやり取りしながらのレースとなりましたが、なんとかポジションを守り、タイヤを替えれば症状が良くなると思い走ったものの、ピットインを目前にしてタイヤが外れてしまいました。結果はリタイアでしたが、チャンスがある位置でレースをしていたので非常に残念です。次戦リベンジできるよう。なんとか頑張っていきたいと思います」



村田淳一監督

「左リヤタイヤが外れてしまった原因はまだ特定できていませんが、昨年からのホイールに起きていたトラブルが原因なのか、接触の原因なのかはまだ分かりません。またクルマの熟成についても、まだまわりとは差がありました。ウェイトなりの走りができていないので、その点は課題ですね。トラブルの原因を今後しっかり究明し、対策を練っていきたいと思っています。第3戦鈴鹿以降、



TGR TEAM ZENT CERUMO

トラブルを出さないことを徹底したいですし、鈴鹿では勝ちにいかないかなければならないと思っています。引き続きご声援よろしくお願い致します」



ZENT

**GR TOYOTA
GAZOO
Racing**

BRIDGESTONE

**PMU
RACING PADS**

ADVICS

HEISEI

asics

JMS

トヨタ東自大

BBS

**SHOWA
BRAKE FLUID**

YAMAHA

TGR TEAM ZENT CERUMO

決勝正式結果

Rank	Car No.	CarName	Laps	BestLapTime
1	17	Astemo NSX-GT	110	1'30.265
2	14	ENEOS X PRIME GR Supra	110	1'29.896
3	37	KeePer TOM'S GR Supra	110	1'29.772
4	1	STANLEY NSX-GT	110	1'29.544
5	3	CRAFTSPORTS MOTUL GT-R	110	1'30.274
6	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	110	1'30.282
7	19	WedsSport ADVAN GR Supra	110	1'30.056
8	8	ARTA NSX-GT	110	1'29.590
9	12	CALSONIC IMPUL GT-R	110	1'30.633
10	64	Modulo NSX-GT	110	1'30.627
11	16	Red Bull MOTUL MUGEN NSX-GT	110	1'30.271
12	24	REALIZE CORPORATION ADVAN GT-R	109	1'30.757
13	36	au TOM'S GR Supra	98	1'29.476
	38	ZENT CERUMO GR Supra	31	1'29.913
	23	MOTUL AUTECH GT-R	2	1'31.175

ZENT

GR TOYOTA
GAZOO
Racing

BRIDGESTONE

PMU
RACING PADS

ADVICS


HEISEL

asics



 トヨタ東自大

BBS

SHOWA
BRAKE FLUID

